
認知症診療のための 教育プログラムの作成とその応用

Educational program for dementia management and its clinical application

鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座・環境保健学分野

浦上克哉*

認知症は高齢者が最もなりたくない病気とされており、医療ニーズの高い病気である。また、認知症は65歳以上の高齢者の10人に1人の頻度で見られる“ありふれた病気”である。このような頻度で見られる病気は専門医だけでは到底対応することができない¹⁾。そこで、かかりつけ医に認知症診療が期待されている。しかし、認知症は発見が難しく日常診療の中で見逃してしまう。そのために我々は、認知症診療のための教育プログラムを作成し、日本内科学会総会で実践的な教育セミナーを行う機会を得た。第107回日本内科学会総会会頭の島根大学医学部付属病院長である小林祥泰先生のご配慮で実践的な教育セミナーの企画のひとつとして取り上げて頂いた。多くの内科医は、かかりつけ医として地域医療を担っており、日本内科学会として取り上げる意

義は極めて大きいと考える。

実践的教育セミナーの内容は実践的で、「明日からすぐできる」ということを目標として、約3時間半で行った。4月9-11日に3日間同じ内容計3回行った。1回定員100名で、合計300名の参加を得た。実践的教育セミナーのプログラムは、4部構成となっている。

4月9日は、司会 鳥取大学保健学科 浦上克哉、パート1 認知症の理解（鳥取大学保健学科 浦上克哉）、パート2 認知症の鑑別診断（東原整形外科神経内科 涌谷陽介）、パート3 認知症診療の実際（日本医大内科 北村 伸）、パート4 認知症の治療・介護のアドバイス（熊本大精神科 池田 学）。4月10日は、司会 日本医大内科 北村 伸、パート1 認知症の理解（神戸大学老年医学 櫻井孝）、パート2 認知症の鑑別診断（東原整形外科神経内科 涌谷陽介）、パート3 認知症診療の実際（鳥取大学保健学科 浦上克哉）、パート4 認知症の治療・介護のアドバイス（首都大学東京 繁田雅弘）。4月11日は、司会 鳥取大学保健学科 浦上克哉、パート1 認知症の理解（神戸大学老年医学 櫻井孝）、パート2 認知症の鑑別診断（東原整形外科神経内科 涌谷陽介）、パート3 認知症診療の実際（日本医大内科 北村 伸）、パート4 認知症の治療・介護のアドバイス（田北メモリーメンタルクリニック 田北昌史）である。

具体的には、パート1では認知症診療に必要な基



図1 実践的生涯教育プログラム

* Katsuya Urakami: Section of Environment and Health Science, Department of Biological Regulation, Faculty of Medicine, Tottori University.



図2 講師による問診と診察の実演

礎知識を、パート2では認知症診療に必要な鑑別診断の理解を得られる内容とした。パート3は、パート1と2の内容を理解した上で問診の仕方、神経所見のとり方を専門医が実演するものである。熟練された模擬患者さんと実際の問診の中で、いかに認知症の存在に気付くかのポイントを紹介し、鑑別診断に必要な簡単な神経所見の取り方を紹介する。問診の中では「振り向き動作」、「取り繕い現象」などの、認知症患者に特有な所見を紹介する。神経所見では、「バレーサイン」、「幅広歩行」などのアルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の鑑別に役立つ所見を、「小刻み歩行」、「振戦」、「筋固縮」などのアルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の鑑別に役立つ所見を紹介する。その後、フロアから参加された医師に、模擬患者さんを相手に問診の仕方、神経所見のとり方を体験して頂く。その際着目したポイント、神経所見の要点を議論し、講師がアドバイスをさせて頂く。これにより、実際に体験された医師だけでなく参加された医師全員がより理解を深めることができる。パート4では、認知症の中核症状と周辺症状への治療法の実際と介護のアドバイスをする。

アンケート結果では、「全体の内容が理解できましたか」という質問に224名の参加者から回答が得られ、「とてもよく理解できた」が78名(34.7%)、「よく理解できた」が111名(49.6%)、「理解できた」が34名(14.2%)、よく理解できた以上が約85%であった(図3)。「明日からの認知症診療に役立つと思いませんか」という質問には、233名の回答が得られ、「すぐ役に立つと思った」が118名(51%)、「役に立つと思った」が113名(48%)であり、99%の参加者が明日からの診療に役立つ内容であった

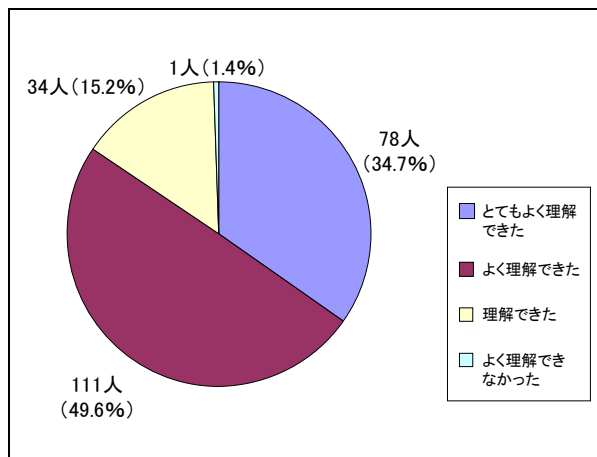


図3 全体の内容は理解できましたか？

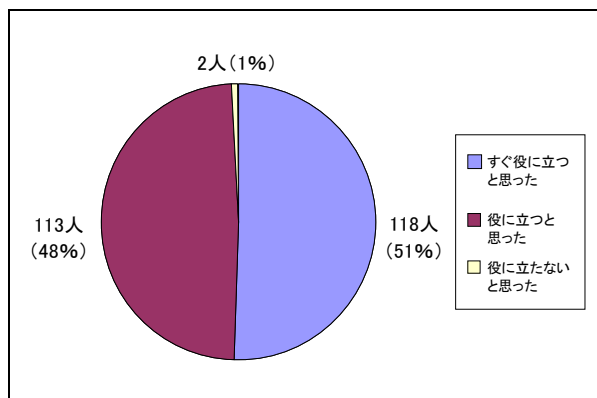


図4 明日からの認知症診療に役立つと思いませんか？

と回答された(図4)。この結果から、「明日からの診療に役立つ内容」という目標は達成できたものとする。

日本の現在推定される認知症患者数からすると今回の企画のみでは達成できず、次年度の学会でも取り上げられることが期待される。第108回日本内科学会総会(永井良三会頭)でも企画として取り上げられることを決定して頂き、2011年4月15-17日に同企画が開催予定となった。次回総会では、前回と同様の内容を企画すると共に、アドバンスコースを加える予定である。昨年参加頂いた医師向けであるが、「認知症診療の真髄を極める」というタイトルでよりレベルアップした企画を準備していた。残念ながら、東日本大震災で学会自体が中止となり実践セミナーも実現しなかったが、2012年4月の第109回日本内科学会総会(中尾一和会頭)京都(みやこめっせ)で本企画が取り上げられることが決定している。

参考図書

- 1) これでわかる認知症診療、浦上克哉、南江堂、2009.
- 2) 認知症 よい対応わるい対応～正しい理解と効果的な予防、浦上克哉、日本評論社、2010.
- 3) 認知症の基礎と臨床Ⅰ、Ⅱ、大内尉義、浦上克哉、ワールドプランニング、2009.

この論文は、平成 22 年 7 月 31 日（土）第 24 回
老年期認知症研究会で発表された内容です。